

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2019-152000

(P2019-152000A)

(43) 公開日 令和1年9月12日(2019.9.12)

(51) Int.Cl.

E06B 1/56 (2006.01)

F1

E06B 1/56

A

テーマコード (参考)

2E011

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2018-36957 (P2018-36957)
 (22) 出願日 平成30年3月1日 (2018.3.1)

(71) 出願人 302045705
 株式会社 L I X I L
 東京都江東区大島2丁目1番1号
 (74) 代理人 100106002
 弁理士 正林 真之
 (74) 代理人 100165157
 弁理士 芝 哲央
 (74) 代理人 100126000
 弁理士 岩池 満
 (74) 代理人 100160794
 弁理士 星野 寛明
 (72) 発明者 井東 克孝
 東京都江東区大島二丁目1番1号 株式会
 社 L I X I L 内
 Fターム(参考) 2E011 JA00 KA06 KB02 KC01 KD14
 KG06 KH01

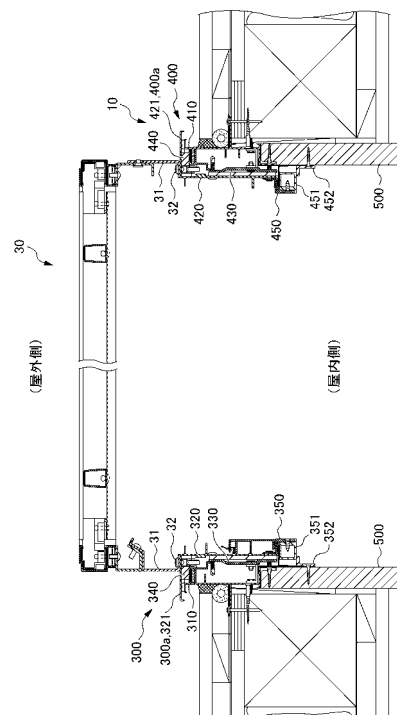
(54) 【発明の名称】 改装サッシ

(57) 【要約】

【課題】既設枠と新設枠との間の止水性能に影響を与え
 ることなく、窓枠に装飾材を取り付けることができる改
 装サッシを提供すること。

【解決手段】建物の開口部に取り付けられた既設枠310、410と、既設枠310、410の内周側を覆うように取り付けられる新設枠320、420と、を有する窓枠10を備える改装サッシ1であって、既設枠310、410と新設枠320、420との間に止水材340、440が設けられると共に、窓枠10の屋外側の見付け面300a、400aに装飾材30、40が取り付けられ、装飾材30、40は、止水材340、440と干渉しない位置に取付けねじ32、43、45によって固定されている。

【選択図】 図3



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

建物の開口部に取り付けられた既設枠と、前記既設枠の内周側を覆うように取り付けられる新設枠と、を有する窓枠を備える改装サッシであって、

前記既設枠と前記新設枠との間に止水材が設けられると共に、前記窓枠の屋外側の面に装飾材が取り付けられ、

前記装飾材は、前記止水材と干渉しない位置に取付けねじによって固定されている、改装サッシ。

【請求項 2】

前記既設枠は、既設縦枠を有すると共に、前記新設枠は、新設縦枠を有し、

10

前記止水材は、前記既設縦枠と前記新設縦枠との間に設けられる縦枠止水材であり、

前記装飾材は、前記縦枠止水材よりも内周側の位置に前記取付けねじによって固定されている、請求項 1 に記載の改装サッシ。

【請求項 3】

前記既設縦枠と前記新設縦枠との間に、前記新設縦枠を取り付けるためのベース材が設けられ、

前記装飾材は、前記ベース材よりも内周側の位置に前記取付けねじによって固定されている、請求項 2 に記載の改装サッシ。

【請求項 4】

前記既設枠は、既設上枠を有すると共に、前記新設枠は、新設上枠を有し、

20

前記止水材は、前記既設上枠と前記新設上枠との間に設けられる上枠止水材を含み、

前記取付けねじは、前記上枠止水材と干渉しない位置に固定されている、請求項 2 又は 3 に記載の改装サッシ。

【請求項 5】

前記縦枠止水材の上端部と前記上枠止水材とは突き当てられている、請求項 4 に記載の改装サッシ。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、建物に設けられている既設窓を改装するための改装サッシに関する。

30

【背景技術】**【0002】**

従来、既設の窓を改装する方法として、カバー工法が採用されている。このカバー工法によって改装された改装サッシでは、建物の開口部に取り付けられた既設枠に対して、その内周側を覆うように新設枠が取り付けられる（例えば、特許文献 1 参照）。

【0003】

ところで、窓枠の屋外側に面格子やシェード等の装飾材が取り付けられた窓が知られている。既設の窓を改装する場合においても、改装サッシに装飾材を取り付けることが要望されている。

【先行技術文献】

40

【特許文献】**【0004】**

【特許文献 1】特開 2016 - 94771 号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0005】**

装飾材は、窓の屋外側の縦枠に対して取付けねじを用いて固定される。しかし、改装サッシは、既設枠と新設枠との間からの雨水の浸入を防止するために新たに止水材が設けられ、既設枠と新設枠との間を止水する構造が付加されるため、窓枠に取付けねじをねじ込むと、取付けねじが止水材を破損、欠落させ、止水性能に影響を与えるおそれがある。

50

【 0 0 0 6 】

そこで、本発明は、既設枠と新設枠との間の止水性能に影響を与えることなく、装飾材を取り付けることができる改装サッシを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 7 】

(1) 本発明に係る改装サッシは、建物の開口部に取り付けられた既設枠（例えば、後述の既設上枠 1 1 0、既設下枠 2 1 0 及び既設縦枠 3 1 0、4 1 0）と、前記既設枠の内周側を覆うように取り付けられる新設枠（例えば、後述の新設上枠 1 2 0、新設下枠 2 2 0 及び新設縦枠 3 2 0、4 2 0）と、を有する窓枠（例えば、後述の窓枠 1 0）を備える改装サッシ（例えば、後述の改装サッシ 1）であって、前記既設枠と前記新設枠との間に止水材（例えば、後述の止水材 3 4 0、4 4 0）が設けられると共に、前記窓枠の屋外側の面（例えば、後述の見付け面 3 0 0 a、4 0 0 a）に装飾材（例えば、後述の装飾材 3 0、4 0）が取り付けられ、前記装飾材は、前記止水材と干渉しない位置に取付けねじ（例えば、後述の取付けねじ 3 2、4 3、4 5）によって固定されている。

10

【 0 0 0 8 】

(2) (1) に記載の改装サッシにおいて、前記既設枠は、既設縦枠（例えば、後述の既設縦枠 3 1 0、4 1 0）を有すると共に、前記新設枠は、新設縦枠（例えば、後述の新設縦枠 3 2 0、4 2 0）を有し、前記止水材は、前記既設縦枠と前記新設縦枠との間に設けられる縦枠止水であり、前記装飾材は、前記縦枠止水材よりも内周側の位置に前記取付けねじによって固定されていることが好ましい。

20

【 0 0 0 9 】

(3) (2) に記載の改装サッシにおいて、前記既設縦枠と前記新設縦枠との間に、前記新設縦枠を取り付けるためのベース材（例えば、後述の縦枠ベース材 3 3 0、4 3 0）が設けられ、前記装飾材は、前記ベース材よりも内周側の位置に前記取付けねじによって固定されていることが好ましい。

【 0 0 1 0 】

(4) (2) 又は (3) に記載の改装サッシにおいて、前記既設枠は、既設上枠（例えば、後述の既設上枠 1 1 0）を有すると共に、前記新設枠は、新設上枠（例えば、後述の新設上枠 1 2 0）を有し、前記止水材は、前記既設上枠と前記新設上枠との間に設けられる上枠止水材（例えば、後述の上枠止水材 1 4 0）を含み、前記取付けねじは、前記上枠止水材と干渉しない位置に固定されていることが好ましい。

30

【 0 0 1 1 】

(5) (4) に記載の改装サッシにおいて、前記縦枠止水材の上端部と前記上枠止水材とは突き当てられていることが好ましい。

【発明の効果】

【 0 0 1 2 】

本発明は、既設枠と新設枠との間の止水性能に影響を与えることなく、装飾材を取り付けることができる改装サッシを提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 3 】

40

【図 1】本発明の一実施形態に係る改装サッシを屋外側から見た正面図である。

【図 2】図 1 に示す改装サッシの縦断面図である。

【図 3】図 1 に示す改装サッシの横断面図である。

【図 4】図 2 に示す改装サッシの上枠部分の拡大縦断面図である。

【図 5】図 2 に示す改装サッシの下枠部分の拡大縦断面図である。

【図 6】図 3 に示す改装サッシの一方の縦枠部分の拡大横断面図である。

【図 7】図 3 に示す改装サッシの他方の縦枠部分の拡大横断面図である。

【図 8】本発明の他の実施形態に係る改装サッシの縦断面図である。

【図 9】図 8 に示す改装サッシの横断面図である。

【発明を実施するための形態】

50

【 0 0 1 4 】

以下、本発明の一実施形態について、図面を参照して詳しく説明する。

図 1 は、本発明の一実施形態に係る改装サッシを屋外側から見た正面図であり、図 2 は、図 1 に示す改装サッシの縦断面図であり、図 3 は、図 1 に示す改装サッシの横断面図である。図 4 は、図 2 に示す改装サッシの上枠部分の拡大縦断面図であり、図 5 は、図 2 に示す改装サッシの下枠部分の拡大縦断面図である。図 6 は、図 3 に示す改装サッシの一方の縦枠部分の拡大横断面図であり、図 7 は、図 3 に示す改装サッシの他方の縦枠部分の拡大横断面図である。

【 0 0 1 5 】

図 1 に示すように、本発明に係る改装サッシ 1 は、建物の開口部に納められる引違い窓タイプの改装サッシである。改装サッシ 1 は、上枠 1 0 0 と、下枠 2 0 0 と、左右一對の縦枠 3 0 0、4 0 0 により矩形に枠組みされた窓枠 1 0 と、この窓枠 1 0 にスライド可能に納められる障子 2 0、2 0 と、窓枠 1 0 の屋外側に取り付けられる装飾材 3 0 と、を備える。本実施形態に示す装飾材 3 0 は一例であり、ここでは面格子を例示している。

【 0 0 1 6 】

図 2、図 4 に示すように、上枠 1 0 0 は、既設上枠 1 1 0 と、新設上枠 1 2 0 と、上枠ベース材 1 3 0 と、上枠止水材 1 4 0 と、を含んで構成される。

【 0 0 1 7 】

既設上枠 1 1 0 は、下方に向けて立設される既設障子用のガイドレール 1 1 1 a、1 1 1 b と、このガイドレール 1 1 1 a、1 1 1 b よりも屋外側の端部に、下方に向けて延びる屋外側壁部 1 1 2 と、を有する。これらガイドレール 1 1 1 a、1 1 1 b 及び屋外側壁部 1 1 2 は、既設上枠 1 1 0 の長さ方向に沿って延びている。既設上枠 1 1 0 の屋内側は、建物の開口部の内周面に四周に亘って設けられた額縁部材 5 0 0 に固定されている。

【 0 0 1 8 】

新設上枠 1 2 0 は、上枠ベース材 1 3 0 を間に挟んで、既設上枠 1 1 0 の内周側に取り付けられる。新設上枠 1 2 0 は、下方に向けて立設される障子 2 0、2 0 用のガイドレール 1 2 1 a、1 2 1 b と、このガイドレール 1 2 1 a、1 2 1 b よりも屋外側に配置される屋外側壁部 1 2 2 と、を有する。屋外側壁部 1 2 2 は、新設上枠 1 2 0 の屋外側の端部から上方に向けて、屋外側壁部 1 1 2 と略平行に延びており、屋外側壁部 1 1 2 の屋外側を覆い隠すように配置されている。これらガイドレール 1 2 1 a、1 2 1 b 及び屋外側壁部 1 2 2 は、新設上枠 1 2 0 の長さ方向に沿って延びている。

【 0 0 1 9 】

上枠ベース材 1 3 0 は、既設上枠 1 1 0 と新設上枠 1 2 0 との間に配置される。上枠ベース材 1 3 0 は、既設上枠 1 1 0 の長さ比べて十分に短い長さに形成された金属製の板状部材からなり、上枠ベース材 1 3 0 の裏面に設けられるブラケット 1 3 1 によって、既設上枠 1 1 0 のガイドレール 1 1 1 a、1 1 1 b を利用して取り付けられる。上枠ベース材 1 3 0 は、既設上枠 1 1 0 の長さ方向に間隔をおいて複数取り付けられる。これにより、各上枠ベース材 1 3 0 は、既設上枠 1 1 0 の内周側（下側）に、新設上枠 1 2 0 のための略平坦な取付け面を形成する。新設上枠 1 2 0 は、この上枠ベース材 1 3 0 の表面（下側）に対して取り付けられる。

【 0 0 2 0 】

上枠止水材 1 4 0 は、例えば発泡ゴムからなり、既設上枠 1 1 0 の屋外側壁部 1 1 2 と新設上枠 1 2 0 の屋外側壁部 1 2 2 との間で挟持されている。この上枠止水材 1 4 0 は、上枠 1 0 0 の全長に亘って延びている。これにより、屋外側から既設上枠 1 1 0 と新設上枠 1 2 0 との間に雨水が浸入することを防止する。

【 0 0 2 1 】

図 2、図 5 に示すように、下枠 2 0 0 は、既設下枠 2 1 0 と、新設下枠 2 2 0 と、下枠ベース材 2 3 0 と、を含んで構成される。

【 0 0 2 2 】

既設下枠 2 1 0 は、建物の開口部の下側部に取り付けられる。既設下枠 2 1 0 は、上方

10

20

30

40

50

に向けて立ち上がる既設障子用のガイドレール 2 1 1 a、2 1 1 b と、このガイドレール 2 1 1 a、2 1 1 b よりも屋外側に配置される屋外側壁部 2 1 2 と、を有する。屋外側壁部 2 1 2 は、既設下枠 2 1 0 の屋外側の端部から上下方向に延びている。これらガイドレール 2 1 1 a、2 1 1 b 及び屋外側壁部 2 1 2 は、既設下枠 2 1 0 の長さ方向に沿って延びている。既設下枠 2 1 0 の屋内側は、額縁部材 5 0 0 に固定されている。

【0023】

新設下枠 2 2 0 は、下枠ベース材 2 3 0 を間に挟んで、既設下枠 2 1 0 の内周側に取り付けられる。新設下枠 2 2 0 は、上方に向けて立ち上がる障子 2 0、2 0 用のガイドレール 2 2 1 a、2 2 1 b と、このガイドレール 2 2 1 a、2 2 1 b よりも屋外側に配置される屋外側壁部 2 2 2 と、を有する。屋外側壁部 2 2 2 は、新設下枠 2 2 0 の屋外側の端部から下方に向けて、既設下枠 2 1 0 の屋外側壁部 2 1 2 と略平行に延びており、屋外側壁部 2 1 2 の屋外側を覆い隠すように配置されている。これらガイドレール 2 2 1 a、2 2 1 b 及び屋外側壁部 2 2 2 は、新設下枠 2 2 0 の長さ方向に沿って延びている。

10

【0024】

なお、この改装サッシ 1 において、新設上枠 1 2 0 のガイドレール 1 2 1 a、1 2 1 b と新設下枠 2 2 0 のガイドレール 2 2 1 a、2 2 1 b とに亘って、引違い用の 2 枚の障子 2 0、2 0 がスライド可能に納められるが、図 2 ~ 図 7 において、障子 2 0 の図示は省略した。

【0025】

下枠ベース材 2 3 0 は、既設下枠 2 1 0 と新設下枠 2 2 0 との間に配置される。下枠ベース材 2 3 0 は、2 枚の障子 2 0、2 0 の荷重を受けるため、下枠 2 0 0 の長さ方向に亘って延びる金属製の板状部材からなる。下枠ベース材 2 3 0 の屋外側は、既設下枠 2 1 0 の屋外側のガイドレール 2 1 1 a 上に載置され、屋内側は、ブラケット 2 3 1 によって既設下枠 1 1 0 の屋内側のガイドレール 2 1 1 b に取り付けられている。これにより、下枠ベース材 2 3 0 は、既設下枠 2 1 0 の内周側（上側）に、新設下枠 2 2 0 のための略平坦な取付け面を形成する。新設下枠 2 2 0 は、この下枠ベース材 2 3 0 の表面（上面）に対して取り付けられる。

20

【0026】

図 2、図 6、図 7 に示すように、左右の縦枠 3 0 0、4 0 0 は、既設縦枠 3 1 0、4 1 0 と、新設縦枠 3 2 0、4 2 0 と、縦枠ベース材 3 3 0、4 3 0 と、縦枠止水材 3 4 0、4 4 0 と、を含んで構成される。なお、図 2 では、既設縦枠 4 1 0 の内周側に設けられる新設縦枠 4 2 0 の図示を省略している。

30

【0027】

既設縦枠 3 1 0、4 1 0 は、建物の開口部の屋外側の左右縦側部にそれぞれ取り付けられている。既設縦枠 3 1 0、4 1 0 は、内側に向けて突出する複数のフィン 3 1 1 a、3 1 1 b、4 1 1 a、4 1 1 b、4 1 1 c を有する。既設縦枠 3 1 0、4 1 0 の屋内側は、額縁部材 5 0 0 に固定されている。

【0028】

新設縦枠 3 2 0、4 2 0 は、縦枠ベース材 3 3 0、4 3 0 を間に挟んで、既設縦枠 3 1 0、4 1 0 の内周側に取り付けられる。新設縦枠 3 2 0、4 2 0 の屋外側には、屋外側壁部 3 2 1、4 2 1 を有する。屋外側壁部 3 2 1、4 2 1 は、新設縦枠 3 2 0、4 2 0 の屋外側端部から左右の外側方に向けて延びており、既設縦枠 3 1 0、4 1 0 と新設縦枠 3 2 0、4 2 0 との隙間を覆い隠すように配置されている。屋外側壁部 3 2 1、4 2 1 は、新設縦枠 3 2 0、4 2 0 の長さ方向に沿って延びている。

40

【0029】

縦枠ベース材 3 3 0、4 3 0 は、既設縦枠 3 1 0、4 1 0 と新設縦枠 3 2 0、4 2 0 との間に配置される。縦枠ベース材 3 3 0、4 3 0 は、それぞれ新設縦枠 3 2 0、4 2 0 の長さ比べて十分に短い長さに形成された金属製の板状部材からなり、既設縦枠 3 1 0、4 1 0 の長さ方向に間隔をおいて、既設縦枠 3 1 0、4 1 0 の内周側に複数取り付けられる。これにより、各縦枠ベース材 3 3 0、4 3 0 は、既設縦枠 3 1 0、4 1 0 の内周側に

50

、新設縦枠 3 2 0、4 2 0 のための略平坦な取付け面を形成する。新設縦枠 3 2 0、4 2 0 は、この縦枠ベース材 3 3 0、4 3 0 の表面に対して取り付けられる。

【0030】

縦枠ベース材 3 3 0、4 3 0 の取付け構造について更に説明する。

先ず、縦枠ベース材 3 3 0、4 3 0 の屋外側は、既設縦枠 3 1 0、4 1 0 に設けられた最も屋外側のフィン 3 1 1 a、4 1 1 a を利用して既設縦枠 3 1 0、4 1 0 に取り付けられる。即ち、縦枠ベース材 3 3 0、4 3 0 の屋外側の裏面には、これらのフィン 3 1 1 a、4 1 1 a を挟むように平行に立設される一対の取付け片 3 3 1、4 3 1 を有する。

【0031】

取付け片 3 3 1、4 3 1 の間には、フィン 3 1 1 a、4 1 1 a を挟んだ状態で、縦枠ベース材 3 3 0、4 3 0 の表面側から、フィン 3 1 1 a、4 1 1 a 及び取付け片 3 3 1、4 3 1 の立設方向に沿って取付けねじ 3 3 2、4 3 2 がねじ込まれている。これにより、取付け片 3 3 1、4 3 1 (本実施形態では取付け片 3 3 1、4 3 1 の屋外側の取付け片の内面) と取付けねじ 3 3 2、4 3 2 との間でフィン 3 1 1 a、4 1 1 a が挟持され、縦枠ベース材 3 3 0、4 3 0 の屋外側が既設縦枠 3 1 0、4 1 0 に固定される。

【0032】

一方、縦枠ベース材 3 3 0、4 3 0 の屋内側は、ブラケット 3 3 3、4 3 3 によって既設縦枠 3 1 0、4 1 0 の内周面に固定される。

【0033】

縦枠止水材 3 4 0、4 4 0 は、例えば発泡ゴムからなり、既設縦枠 3 1 0、4 1 0 の内周側と新設縦枠 3 2 0、4 2 0 の外周側との間における屋外側の部位に、既設縦枠 3 1 0、4 1 0 及び新設縦枠 3 2 0、4 2 0 の長さ方向に沿って介在されている。縦枠止水材 3 4 0、4 4 0 は、新設縦枠 3 2 0、4 2 0 の屋外側壁部 3 2 1、4 2 1 と、縦枠ベース材 3 3 0、4 3 0 の取付け片 3 3 1、4 3 1 の屋外側の側面 3 3 1 a、4 3 1 a との間に挟持されている。これにより、屋外側から既設縦枠 3 1 0、4 1 0 と新設縦枠 3 2 0、4 2 0 との間に雨水が浸入することを防止する。

【0034】

また、縦枠止水材 3 4 0、4 4 0 の上端部は、上枠 1 0 0 の最も下に配置される上枠止水材 1 4 0 の下側面に突き当てられている。これにより、窓枠 1 0 は、各止水材 1 4 0、3 4 0、4 4 0 によって止水されるため、改装サッシ 1 の止水性能をより向上させることができる。

【0035】

図 6、図 7 に示すように、縦枠止水材 3 4 0、4 4 0 は、既設縦枠 3 1 0、4 1 0 の内周側と新設縦枠 3 2 0、4 2 0 の外周側との間の全体に亘って介在されていない。即ち、縦枠止水材 3 4 0、4 4 0 は、既設縦枠 3 1 0、4 1 0 の内周側と新設縦枠 3 2 0、4 2 0 の外周側との間において、既設縦枠 3 1 0、4 1 0 側に片寄って配置され、新設縦枠 3 2 0、4 2 0 とは接していない。このため、既設縦枠 3 1 0、4 1 0 の内周側と新設縦枠 3 2 0、4 2 0 の外周側との間の屋外側の部位には、縦枠止水材 3 4 0、4 4 0 よりも内周側 (新設縦枠 3 2 0、4 2 0 側) に、縦枠止水材 3 4 0、4 4 0 が存在しない空間 S が形成されている。

【0036】

以上の構成を備える窓枠 1 0 は、上枠 1 0 0、下枠 2 0 0 及び左右の縦枠 3 0 0、4 0 0 により矩形に枠組みされる。これにより、改装サッシ 1 の新設枠 (新設上枠 1 2 0、新設下枠 2 2 0 及び新設縦枠 3 2 0、4 2 0) は、各ベース材 1 3 0、2 3 0、3 3 0、4 3 0 を介して、既設枠 (既設上枠 1 1 0、既設下枠 2 1 0 及び既設縦枠 3 1 0、4 1 0) の内周側を覆うように取り付けられている。

【0037】

本実施形態に示す窓枠 1 0 において、新設上枠 1 2 0、新設下枠 2 2 0 及び新設縦枠 3 2 0、4 2 0 は、アルミ等の金属材からなるが、これら新設上枠 1 2 0、新設下枠 2 2 0 及び新設縦枠 3 2 0、4 2 0 の屋内側に、それぞれ樹脂アングル部材 1 5 0、2 5 0、3

10

20

30

40

50

５０、４５０を有する。これにより、窓枠１０は断熱性を有する。

【００３８】

樹脂アングル部材１５０、２５０、３５０、４５０は、それぞれ額縁部材５００との間に間隔を有して配置され、それぞれアングルカバー１５１、２５１、３５１、４５１が装着されている。また、アングルカバー１５１、２５１、３５１、４５１と額縁部材５００の内周面との境目は、額縁部材５００に固定されるＬ型の見切り材１５２、２５２、３５２、４５２によって遮蔽されている。

【００３９】

装飾材３０は、窓枠１０の屋外側、具体的には、左右の縦枠３００、４００の屋外側の見付け面３００ａ、４００ａ（屋外側壁部３２１、４２１の屋外側の側面、図６、図７参照）に、ブラケット３１を介して、取付けねじ３２により固定される。

10

【００４０】

ここで、取付けねじ３２は、図３、図６、図７に示すように、縦枠３００、４００の屋外側の見付け面３００ａ、４００ａに対して、縦枠止水材３４０、４４０と干渉しない位置にねじ込まれている。即ち、取付けねじ３２は、縦枠止水材３４０、４４０の位置を避けて、縦枠止水材３４０、４４０が存在しない空間Ｓ内にねじ込まれている。このため、取付けねじ３２が縦枠止水材３４０、４４０と干渉することが回避され、縦枠止水材３４０、４４０が取付けねじ３２によって破損、欠落することが防止される。また、取付けねじ３２は、上枠止水材１４０の内周側にねじ込まれているため、上枠止水材１４０にも干渉していない。このため、いずれの止水材１４０、３４０、４４０の止水性能も低下するおそれはない。従って、この改装サッシ１によれば、既設枠と新設枠との間の止水性能に影響を与えることなく、窓枠１０に装飾材３０を取り付けることが可能である。

20

【００４１】

また、取付けねじ３２は、縦枠止水材３４０、４４０よりも内周側（新設縦枠３２０、４２０側）に配置されるため、取付けねじ３２よりも外周側を縦枠止水材３４０、４４０で止水することができる。これにより、屋外側から既設縦枠３１０、４１０と新設縦枠３２０、４２０との間に雨水が浸入することをより確実に防止することができる。

【００４２】

なお、図２に示すように、ブラケット３１を取り付けるための取付けねじ３２は、既設縦枠３１０、４１０と新設縦枠３２０、４２０との間に設けられる縦枠ベース材３３０、４３０の位置に対しても干渉していない。即ち、取付けねじ３２は、縦枠３００、４００の高さ方向において、縦枠ベース材３３０、４３０の位置を避けた位置に配置されている。このため、装飾材３０を窓枠１０に取り付ける際に縦枠ベース材３３０、４３０と干渉するおそれはない。

30

【００４３】

また、取付けねじ３２は、図３、図６、図７に示すように、縦枠ベース材３３０、４３０よりも内周側（新設縦枠３２０、４２０側）に配置されている。これにより、取付けねじ３２が縦枠ベース材３３０、４３０と干渉することを確実に防止できるため、装飾材３０を窓枠１０に対して、より安定して固定することができる。

【００４４】

図８、図９は、本発明に係る改装サッシの他の実施形態を示している。図２、図３と同一符号の部位は同一構成の部位を示しているため、それらの説明については上記説明を援用し、ここでは省略する。図８、図９は、装飾材４０がシェードである場合を例示している。

40

【００４５】

この装飾材４０は、ロール状に巻回されたシェードロール部４１を備え、このシェードロール部４１が、窓枠１０の屋外側の見付け面、具体的には、左右の縦枠３００、４００の屋外側の見付け面３００ａ、４００ａ（屋外側壁部３２１、４２１の屋外側の表面）に、取付け部材であるブラケット４２を介して、取付けねじ４３により固定される。

【００４６】

50

この取付けねじ 4 3 も、図 2、図 3 に示す取付けねじ 3 2 と同様に、縦枠止水材 3 4 0、4 4 0 と干渉しないように、縦枠止水材 3 4 0、4 4 0 の位置を避けて、縦枠止水材 3 4 0、4 4 0 よりも内周側（新設縦枠 3 2 0、4 2 0 側）にねじ込まれる。また、取付けねじ 4 3 は、取付けねじ 3 2 と同様に、上枠止水材 1 4 0 と干渉していない。このため、この場合も、既設枠と新設枠との間の止水性能に影響を与えることなく、窓枠 1 0 にシェードからなる装飾材 4 0 を取り付けることが可能である。

【0047】

この装飾材 4 0 は、図 9 に示すように、シェードロール部 4 1 から引き出されたシェードを任意の高さに保持するための複数の保持具 4 4 を有する。これら保持具 4 4 も、ブラケット 4 2 と同様に、縦枠 3 0 0、4 0 0 の屋外側の見付け面 3 0 0 a、4 0 0 a に取付けねじ 4 5 によって固定されるが、この取付けねじ 4 5 も、縦枠止水材 3 4 0、4 4 0 と干渉しないように、縦枠止水材 3 4 0、4 4 0 の位置を避けて、縦枠止水材 3 4 0、4 4 0 よりも内周側（新設縦枠 3 2 0、4 2 0 側）に固定されることが好ましく、更に上枠止水材 1 4 0 と干渉しない位置に固定されることが好ましい。

10

【0048】

更に、これら取付けねじ 4 3、4 5 は、既設縦枠 3 1 0、4 1 0 と新設縦枠 3 2 0、4 2 0 との間に設けられる縦枠ベース材 3 3 0、4 3 0 と干渉しないように、縦枠 3 0 0、4 0 0 の高さ方向において、縦枠ベース材 3 3 0、4 3 0 の位置を避けた位置に配置されるが、更に、縦枠ベース材 3 3 0、4 3 0 よりも内周側（新設縦枠 3 2 0、4 2 0 側）に配置されることが好ましい。これにより、取付けねじ 4 3、4 5 が縦枠ベース材 3 3 0、4 3 0 と干渉することを確実に防止できるため、装飾材 4 0 及び保持具 4 4 を窓枠 1 0 に対して、より安定して固定することができる。

20

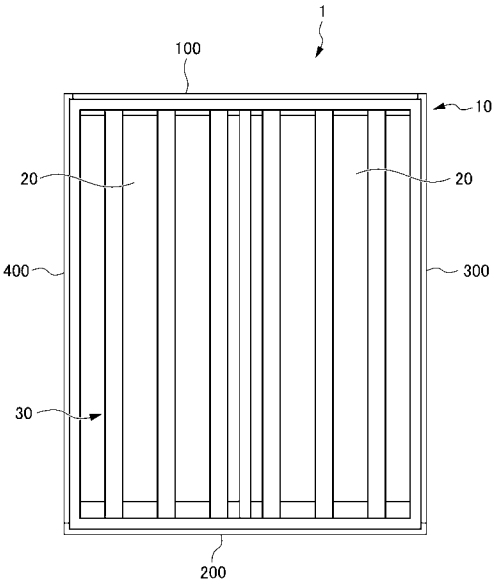
【符号の説明】

【0049】

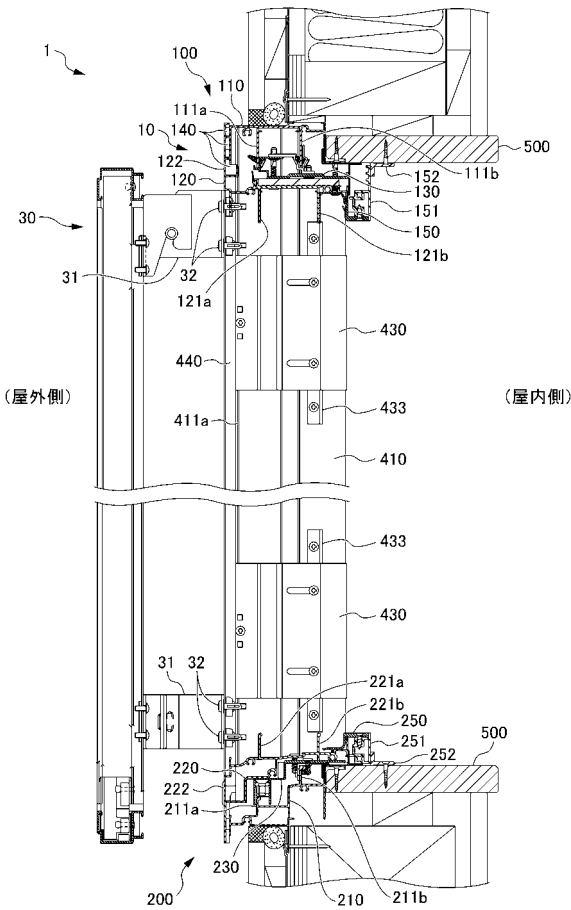
- 1 改装サッシ
- 1 0 窓枠
- 3 0、4 0 装飾材
- 3 2、4 3、4 5 取付けねじ
- 1 1 0 既設上枠（既設枠）
- 1 2 0 新設上枠（新設枠）
- 1 4 0 上枠止水材
- 2 1 0 既設下枠（既設枠）
- 2 2 0 新設下枠（新設枠）
- 3 1 0、4 1 0 既設縦枠（既設枠）
- 3 2 0、4 2 0 新設縦枠（新設枠）
- 3 3 0 a、4 0 0 a 見付け面
- 3 3 0、4 3 0 縦枠ベース材（ベース材）
- 3 4 0、4 4 0 縦枠止水材

30

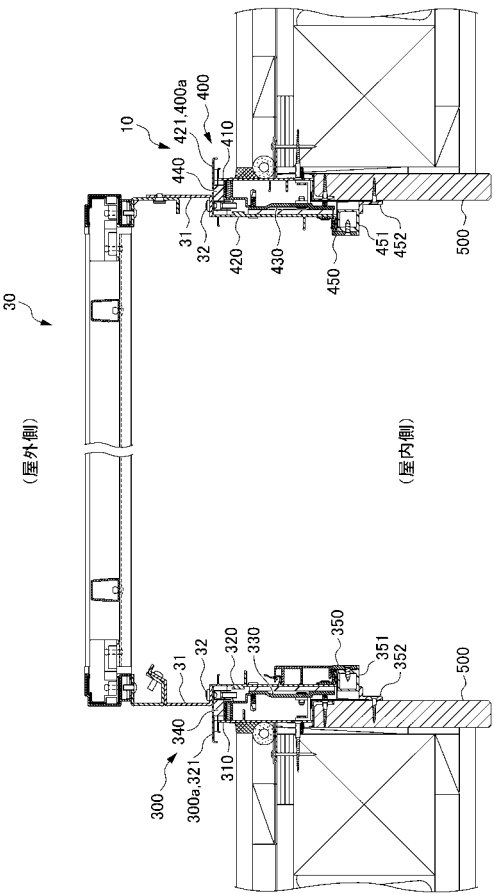
【図 1】



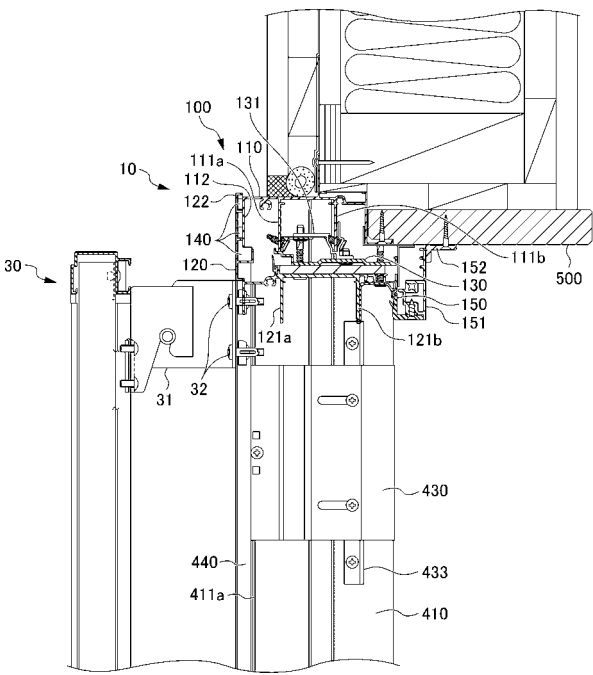
【図 2】



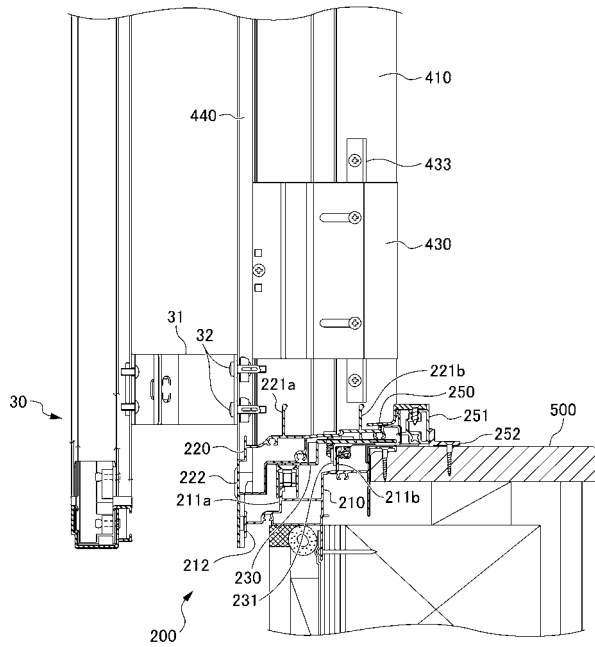
【図 3】



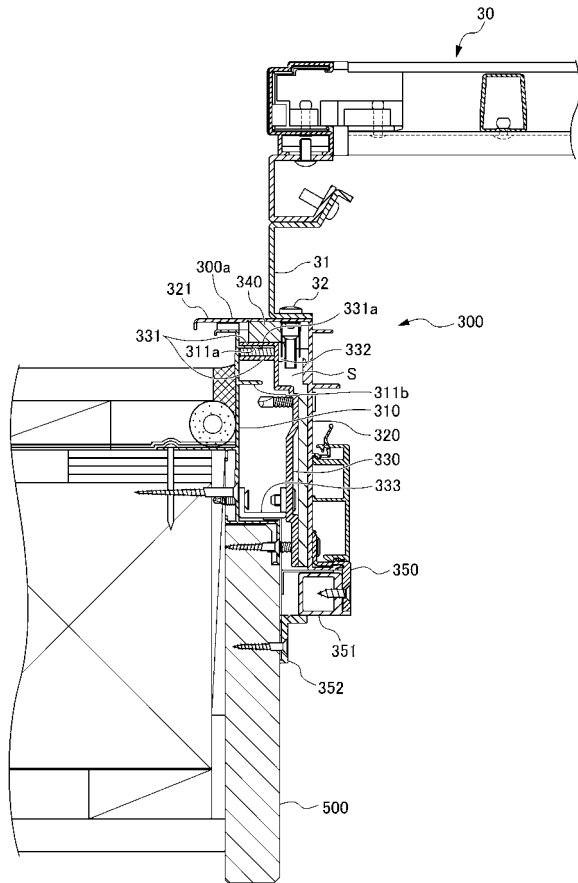
【図 4】



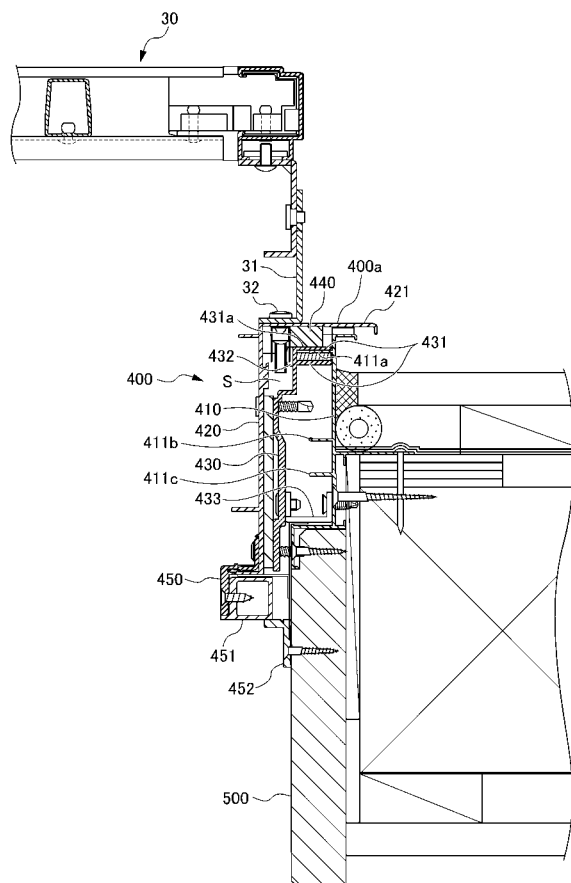
【図 5】



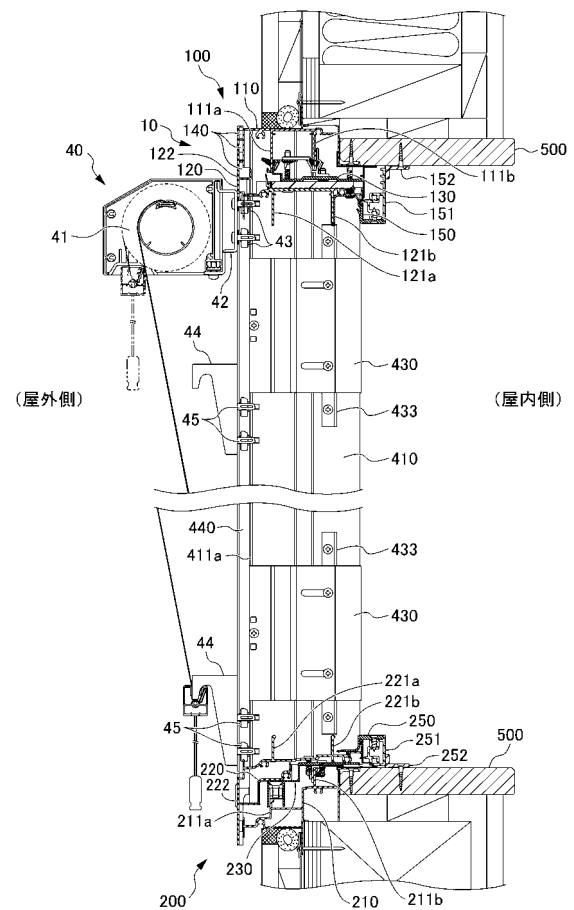
【図 6】



【図 7】



【図 8】



【図 9】

